学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	家庭科	生活を支えるお金と物	令和７年２月７日(金)

１　本時の目標

購入に必要な情報を収集・整理しながら、限られた金額のなかで、よりよい食材の選び方を考え、判断することができる。

２　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
１　「友輝スープ」の食材を購入するときの条件を知り、本時のめあてを設定する。 ○　「友輝スープ」の食材を購入するときの条件 ・　学級全体で考えた３つの食材を購入すること ・　金額は 650 円以内にすること ○　本時のめあて 友輝スープに必要な食材の、よりよい選び方をグループで話し合おう。	○　実際に買物に行くときに持って行く金額と、必要な食材を提示することで、本時の見通しをもつことができるようにする。 ○　実際に買物に行く店舗の写真を提示し、１つの食材でも複数の商品があることに気付かせることで、どのような選び方がよいかについて課題意識をもち、本時のめあてを設定することができるようにする。
２　「友輝スープ」に必要な食材を選ぶために、複数の商品を比較しながら情報を整理し、どのような選び方がよいかを個人で決定する。 ○　商品の比較、情報の整理（例） ・「じゃがいもは、小さいのが複数入っている物よりも、大きいのが１個の方が安いな。」 ・「ベーコンは消味期限が近い物と遠い物がある。重さによって金額も異なるな。」 ○　選び方（例） ・「安さを重視したいから、３割引きのキャベツと大きいじゃがいも１個と、１番安いベーコンがいいな。」　等	○　学習支援アプリで、複数の商品の情報が分かる写真を配付し商品を比較させることで、情報の整理をしながらも、実物を確認したいという思いをもつことができるようにする。 ○　食材の実物を提示し、自由に見たり触ったりすることができる場を設定することで、写真との差に気付き、自分たちで実際に確かめることの大切さを実感することができるようにする。 ○　購入する食材が決定した後に、選んだ理由を考えさせることで、「安いから」「安全に食べたいから」「多くの量を食べたいから」等の思いや願いを表現することができるようにする。
３　「友輝スープ」に必要な食材の選び方を仲間と対話し、よりよい選び方を考え、判断・決定する。（★） ○　「友輝スープ」に必要な食材の選び方 〈対話例〉 A「大きめのベーコンと、３割引きのキャベツと、大きいじゃがいもを１個買うことにした。安さと使いきれる量を重視したよ。」 B「消費期限が近い３割引のキャベツは、少し心配だな。私は、安全性を重視して新鮮なキャベツを選びたいな。」	○　思いや願いを基に、仲間と対話をする場を設定することで、「金額」「量」「安全」等について、共感的・批判的な見方をしながら、よりよい商品の選び方について、視点を増やすことができるようにする。 ○　前時に学習した商品を選ぶための視点（鮮度・量・産地等）とその理由を掲示しておくことで、思いをもちながらも、根拠を明確にしながら対話を行うことができるようにする。
４　本時のふりかえりを行う。 ○　本時のふりかえり ・「ぼくは、これまで割引商品は嬉しいと思っていた。でも、より安全に食べられる物を選ぶとしたら、実際に見て、新鮮な食材を選ぶことが大切だということが分かった。これから、よく考えて買物をすることができるようになりたい。」	○　「○○さんと話をして、金額以外にも、産地が大切なことが分かった。」等と、記述している子どもを意図的に指名し価値付けることで、対話（学び方）のよさを実感することができるようにする。

３　本時の評価規準

購入に必要な情報を収集・整理しながら、限られた金額のなかで、自分のグループに合った食材の選び方を考え、判断している。（思考・判断・表現）【発言分析・記述分析】

４　板書等

【選び方を個人で決定している姿】【食材を自由に見たり触ったりしている姿】　【仲間と対話している姿】

５　指導講評

宮崎県教育研修センター　竹野　弥生　指導主事

○　本時では、対話場面が多く見られた。そのなかでA児がB児に発表のアドバイスをする場面が、あった。A児がB児のよいところを伝えたことで、A児は自信をもって発表することができていた。子ども同士の対話によって、様々な思いや願いが更新されていたように感じた。自律的な学びをめざすうえで対話はとても重要だと感じた。

○　本時は、「挑む段階」であった。挑む段階をよりよくするための条件の１つに、交渉術があると考える。相手を尊重しながら自分の思いを伝え双方が同じ目的に向かっていくスキルが大切だと考える。

○　「挑む段階」のなかで、子どもが失敗をしてしまった場面では、注意をすることなく、見守ることが大切である。そうすることで、子どもは、安心することができ、「もう１回やってみよう」と再チャレンジできるのではないか。

６　考察

【研究内容１：子どもが思いや願いをもって、自分に合った課題を設定するための手立て】

本題材で「友輝スープ」を作るための食材を買いに行くという目的意識を明確にしたことで、思いや願いをもち続けることができたのではないかと考える。しかし、自分に合った課題を設定するタイミング等については課題が残ったため、今後追究していく必要がある。本時では、実際に買物に行く店舗の写真を提示し、１つの食材でも複数の商品があることに気付かせることで、どのような選び方がよいかについて課題意識をもつことができていた。

【研究内容２：自分にとっての「生活の営み」の意味を見いだすための手立て】

650 円以内で３つの食材（じゃがいも・キャベツ・ベーコン）を買うという条件を揃えたことで、グループでの対話が深まり、商品を選ぶための視点を増やすことができていた。その後、ふりかえりを行ったことで、自分が大切にしたい視点について吟味する姿が見られた。